

東北観光博について(案)

国土交通省 観光庁
平成24年1月29日

東北観光博の概要

概 要

東北地域全体を一種の博覧会会場と見立てて、短期的には、大きく落ち込んでいる東北地域への旅行需要の喚起、中長期的には地域が主体となった新たな観光スタイルを実現するため、官民を挙げた一体的な取組みを実施する。

具体的には、東北地域への送客を強化するとともに、東北の主要な観光地域30カ所程度を核となる「ゾーン」として設定し、「地域観光案内人」の配置、地域独自の観光コンテンツの提供等を行い、地域が主体となった持続的な取組みの定着を図る。

東北観光博の5つの柱

多様な旅行者に対して自由度の高い旅行環境の確保

被災地の復興と人的交流の促進

地域の人々と観光客が直に接することによる相互理解深化

東北の観光振興を盛り上げる国民運動の形成

観光情報の統一的・効果的な情報発信

実施する取組み例

(ゾーン内の取組み)

- 旅行者が多様な旅行プランを組み立てられる 地域独自の滞在プログラム（着地型商品）の企画・提供
- 滞在プログラム（着地型商品）を普及促進し、リピーターやファンを獲得するための「地域観光案内人」の配置

(全体的な取組み)

- 旅行会社、交通事業者等との連携による東北地域への送客強化（滞在プログラム（着地型商品）の普及等支援を含む）
- 地域の方々と旅行者の出会いを創るための「東北観光博パスポート」等の導入と「東北観光博公式ガイドブック」作成
- 被災地域における交流の促進を図るための ボランティアツアー等の実施
- 東北の観光振興への応援を国民運動として進めるための「東北観光博サポーター」制度の導入
- 東北地域の観光情報の一元的な提供を行う「東北観光博ポータルサイト」の作成
- 東北地域で将来にわたり活用可能なIT環境の構築
- 媒体等を活用した広報活動

実施期間

平成25年（2013年）3月末まで

※平成24年1月30日からプレ実施、3月18日から本格実施

テーマ、ロゴマーク、目標

テーマ

「こころをむすび、出会いをつくる。」

※別途、各ゾーンにおいて、テーマを設定

ロゴマーク

東北ぜんぶが博覧会場だ。



- テーマカラーは、東北の豊かな森をイメージした「緑」。
- “東北観光博”の文字は、「つよさ」と「しなやかさ」「新しさ」と「伝統」が共存する書体で表現。すべての人を歓迎する思いを込め、日本人の原点とも言える縦書きを基本形。
- マークは絆とふれあいを表現。東北観光博のテーマ「こころをむすび、出会いをつくる。」を具体化し、人々やゾーンの無限のつながりを表す。無限のつながりの中に笑顔がある。6つの県と観光客、あわせて7つが1つになり東北に大きな虹をかけるとの意味から7色の虹色。
- 東北のあたたかい心をイメージしてもらうため、手書きでマークを描写。

目標

- 東北地域への入込客数について、震災前水準(H22ベース)への回復を基本的な目標としつつ、上積みを目指す
 ※ H22ベース推計：1.2億人／年程度
- 地域が主体となって持続的に推進できる仕組みの定着
 (滞在型観光、地域間の連携、地域と旅行客との交流、観光関連情報の一元化・共有とその基盤となるIT環境等)

(参考) 東北観光博とは

2011年3月、私たちは東日本大震災という大きな試練に見舞われました。尊い多くの命が失われ、生活の基盤は激しく揺さぶられました。しかしその中であって、東北の人々のふるさとを愛する姿、互いに助け合う温かさが、全国に、世界に、共感と支援の輪を広げたこともまた事実です。東北には今もなお、日本人の原点とも言うべき精神が生きています。しかも、日本の原風景とも言うべき、美しい山河の中に。明治の時代に日本を旅したイギリス人女性イザベラ・バードは、東北の美しさに驚嘆し、その紀行文で東北を「東洋のアルカディア（理想郷）」と讃え記しました。国境をも越えて響く、その美しい東北の風土の中に、私たちは今“絆”という言葉、“ふれあい”という言葉、あらためて見出しています。多くの人に、東北の、美しい風景と心に触れてほしい。縄文の時代から脈々と続く、東北の魂に触れてほしい。そんな願いを込めて、『東北観光博』を開幕します。東北、まるごと全部が博覧会場。「こころをむすび、出会いをつくる。」をテーマに、2013年3月までの開催です。さあ、復興の光が照らす、東北の新しい旅へ！

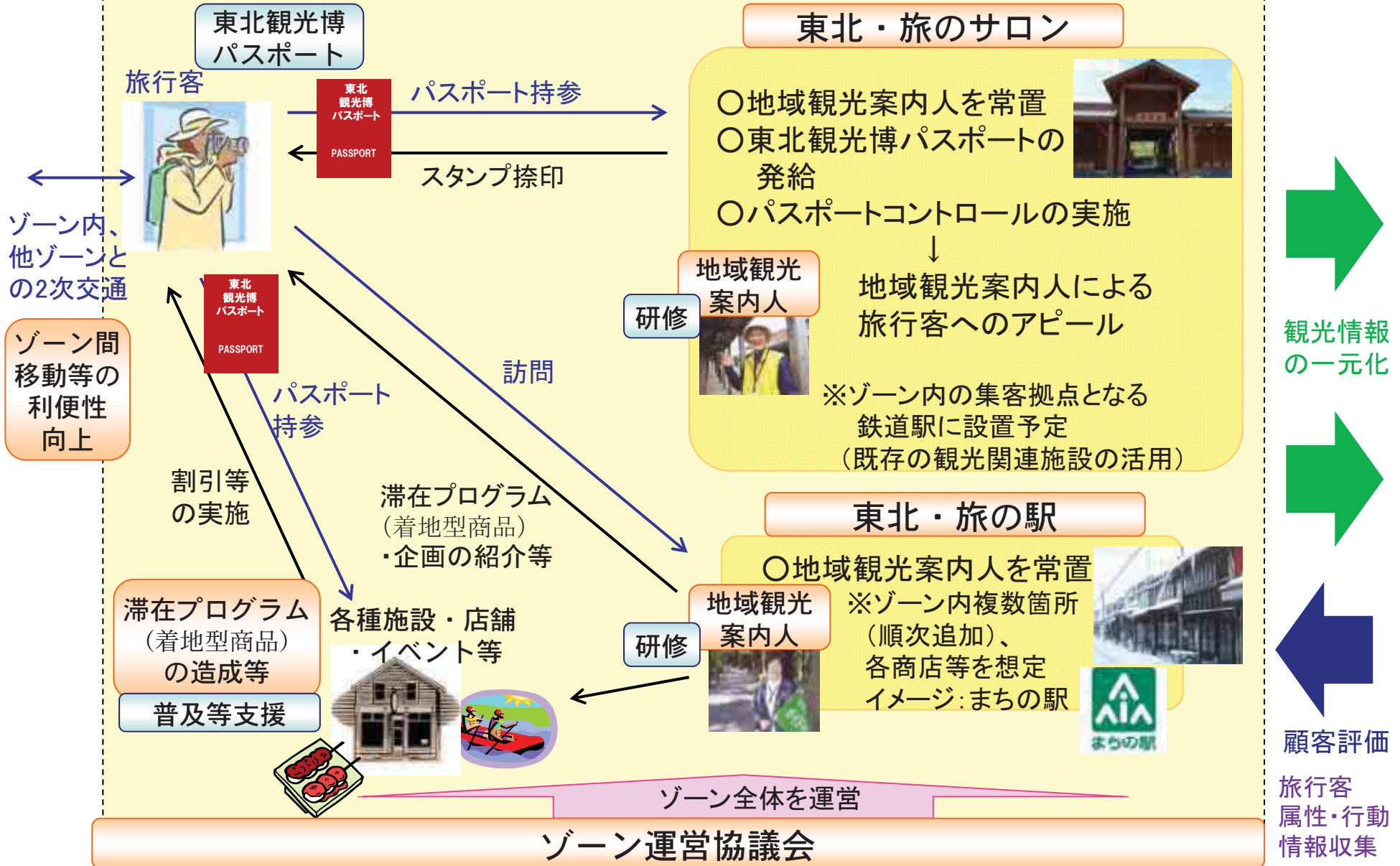
（「東北観光博コンセプトブック」より）

全体の実施概要



各ゾーンにおける実施概要

ゾーン毎に個性あふれるテーマを設定

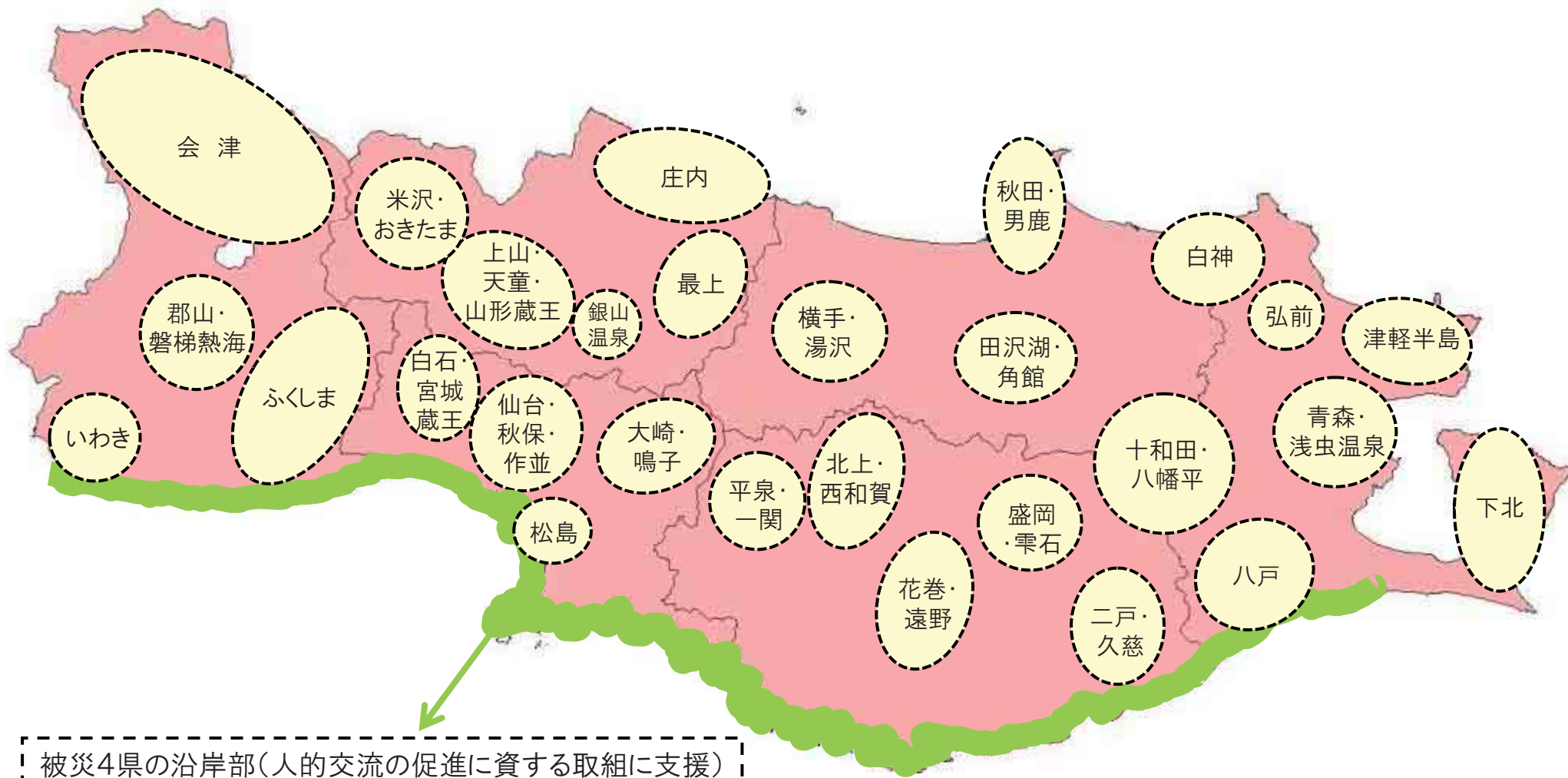


東北観光博公式ガイドブック

東北観光博ポータルサイト

東北観光博における「ゾーン」

- 東北の主要な観光地域30箇所程度を核となる「ゾーン」とする。
- 「被災4県の沿岸部」については、被災地の復興と人的交流の促進に資する取組を支援する。



- 「ゾーン」を核として一定の広がりを持つ圏域として「エリア」を設ける。「エリア」については、各県において設定する。
- ※ゾーンについては、開催期間中に状況を見ながら柔軟に変更等の対応を実施